

幸手市の観光と地域経済

▼四季を通した観光づくり

幸手市の観光名所と言え、北西部に位置する権現堂公園内の桜堤（利根川の支流である権現堂川の堤防）が代表格だろう。桜まつりの期間には県内外から毎年100万人近い人出で賑わっている。その権現堂堤一帯を桜の時期だけでなく、四季を通して観光客が訪れるようにと行政と市民が共同して“花堤”の整備に取り組んでいる。

もともと権現堂の桜は、1934年（大正9年）に3,000本のソメイヨシノが6kmの堤防延長に植えられたもので、関東の桜の名所と知られていた。太平洋戦争の末期には薪として伐採されたが、1949年（昭和24年）に改めて植樹され、現在は約1,000本の桜が1kmにわたってアーチを形成。周囲には菜の花畑も広がり、桜の淡いピンクと黄色の菜の花のコントラストが楽しめる。

毎年のシーズンには「桜まつり」が行われ、今年も79回目を迎えた。祭りの開催中には“さくらマラソン大会”や幸手観光物産展も行われ、大勢の観光客が詰めかける。特に、期間中の土曜日や日曜日になると東武日光線幸手駅から臨時路線バスが運行されるものの、マ



毎年約100万人が花見を楽しむ権現堂の桜堤

イカーや観光バスも乗り入れることから、その駐車場の確保には市当局も頭を悩ませている。周辺には有料と無料合わせて4か所約1,400台分の駐車場があるが、ピーク時には満車になってしまうという。

春の桜まつりが終わると、6月から7月にかけて“あじさいまつり”が行われる。同じ桜堤の一部に100種、9,500株の紫陽花が初夏になると咲き乱れ、訪れた人々の心をいやしてくれる。約1カ月の期間中には約43万人の観光客が訪れ、桜まつりに次ぐ人出を記録、今年も9回目の祭りが行われた。

まだ、開催回数が少ないものの、秋の祭りとして定着してきたのが“曼珠沙華祭り”。4回目の今年も9月中旬から10月上旬にかけて行われ、約40万人の観光客が訪れている。25万株とまだ少ないが、今後株数を増やしていくことにしている。春の桜、夏の紫陽花、秋の曼珠沙華と3シーズンの花祭りが行われる権現堂堤。足りないのは冬の花で、その候補に挙がったのが水仙だ。現在、20万株以上の球根を植えている最中で、市産業振興課では1-2年先には冬の花祭りとして開催したい、と話している。



市民の発案で始まったハッピーハンドの手形モニュメント=市役所前

▼市民の手で植栽と保存

“水仙まつり”が実現すると、権現堂堤は四季折々の花が楽しめる場所となるが、桜以外の花はNPO法人の「幸手権現堂桜堤保存会」が中心となって市民の手で植えられ、花園が保存されている。『桜の花見がわずか2週間ほどで終わってしまい、なんとなく寂しい。1年を通してもっと観光客が権現堂堤に来てもらえないか』と、四季折々の花を植えることを思い立ったそうで、市産業振興課も「市民の皆さんがいなかったら実現しなかった」と市民活動に感謝。近い将来、この権現堂堤だけの観光客数を現在の年間約150万人から200万に伸ばすことを計画している。

市民発案の観光振興策はこの花づくりだけにとどまらない。1988年からスタートした『ハッピーハンド』事業も、青年会議所が中心となつての発案だ。幸手を英語に直してハッピーハンド、その年に一番幸せだった著名人を市民投票で選び、その人の手形をモニュメントにして市役所前や東武日光線幸手駅前通りに設置。幸手を訪れた人たちに少しでも幸せのお裾分けとばかりに、毎年モニュメントは増えている。

▼貢献度低い文化財も

他方、歴史的建造物や文化資産なども多数、市内に散在しているが、観光資源として十分に貢献していない側面もある。例えば、文化財としては正福寺境内にある『義賑窮餓之碑』（ぎしんきゅうがのひ）や権現堂集落農業センターの敷地内で見つかった『マリア像』、浄誓寺にある『将門の首塚』、あるいは徳川将軍家や朝廷からの勅使が休憩した寺の『聖福寺勅使門』などがあるが、市産業振興課は

幸手市の主な観光資源

- **権現堂堤**…埼玉の音風景・かおり風景10選に選ばれた桜と菜の花。最近ではあじさいや曼珠沙華も植えられ、四季を通して楽しむことができる。
- **八坂神社の夏まつり**…300年の歴史と伝統を誇り、幸手の夏を熱気で包み込む。7月中旬の日曜日に華麗な大神輿が宮出しされて始まり、次の週には山車の引き回しで最高潮を迎える。花山で勢揃いする各町の勇壮な山車はみもの。
- **市民まつり**…地域コミュニティの充実と産業振興を目的に行われている祭りで、商工・農産関係の出店や市民団体の模擬店が会場内で繰り広げられる。アトラクションも行われ、毎年多くの人々が参加している。
- **初山**…市内北2丁目と西関宿の浅間神社で、毎年6月30日と7月1日の縁日に行われている。初山はその年に生まれた赤ちゃんの額に初山の印を捺して、健康と長寿の願いを込め疾病の退散を念じる行事。
- **大杉ばやしとささら獅子舞**…毎年7月の第1日曜日に高須賀地区の大杉神社で行われている祭礼で演じられるお囃子が「大杉ばやし」。千塚と松石地区の香取神社で7月中旬に奉納される獅子舞が「ささら獅子舞」で、ともに幸手市の無形民俗文化財に指定されている。
- **ハッピーハンド事業**…幸手市は“幸せの手”とつながり、『幸せの手（ハッピーハンド）』を街づくりのキーワードにしている。幸手青年会議所の発案で毎年、その年に日本一幸せだった著名人を市民投票で選び、その人の手形をモニュメントにして東武日光線幸手駅前通りに設置している。
- **市営釣場神扇池**…神扇池（かみおうぎいけ）は、1994年3月にオープン。気軽にヘラブナ釣りが楽しめ、観光用にも整備している。
- **行幸（みゆき）湖大噴水**…大規模な県営公園として整備が進められている湖。120年を迎えた埼玉県象徴として近くの権現堂大噴水が建設され、高さ120メートルまで噴き上げる水しぶきは迫力満点。水辺の遊歩道は安らぎと潤いを与え、訪れた人々をやさしく迎え入れてくれる。
- **外野橋**…斜め吊材を採用した2径間連続自破式吊橋で、優れた構造特性と美観を合わせ持ち、幸手市のランドマークとなっている。
- **銀杏地蔵**…市の東北端に位置する西関宿に臨川庵（りんせんあん）があり、その境内には樹齢500年と言われる大銀杏がある。その銀杏の中に地蔵が彫りこまれ樹とともに成長、子育て地蔵として子宝に恵まれない人などの信仰を集めている。
- **幸手義賑窮餓之碑（ぎしんきゅうがのひ）**…1783年（天明3年）の浅間山大噴火で冷害と大飢饉が発生、幸手宿周辺の農村も難民が続出した。その時に、幸手宿の義人21人が米や金を出し合い幸手の民を救ったことを称えた碑で、埼玉県の指定文化財となっている。

- **マリア像**…現在の権現堂集落農業センター敷地内から発掘された像で、1820年（文政3年）の頃のものと言われている。「イメス智言」の文字や錫杖（しゃくじょう）上部に刻まれた十字架、抱えている赤子などから隠れ切支丹の信仰対象だったと専門家の間では注目されている。
- **将門の首塚**…浄誓寺に高さ3mの塚があり、天慶の乱（940年）に敗れた将門の首が埋められていると言われている。付近には、将門の血が赤く木を染めたことから名付けられたという赤木という地名も残っている。
- **巡礼の碑**…1802年（享和2年）の春の長雨と夏の雷雨で利根川が決壊、大洪水となった時に、通りかかった巡礼の母が自ら進んで人柱となり濁流に身を投じたところ、洪水が治まったことから建てられた。幸手市の指定文化財史跡。
- **街道の道しるべ**…幸手宿は日光街道と御成道が合流していたことから、現在も多くの道しるべが残っている。
- **聖福寺勅使門**…旧日光街道沿いに今も残る聖福寺。將軍の間や勅使の間があり、左甚五郎作と伝わる彫刻や絵画も残っている。幸手市の指定有形文化財建造物。

「人を呼ぶだけの観光資源としてはインパクトが弱く、今のところ保護・保全だけに終わっている」と話す。

観光資源として力強さに欠けていても、市民にとっては毎年楽しみに待っている行事がある。『八坂神社の夏祭り』や『大杉ばやし・ささら』などの市民祭りだ。八坂神社の夏祭りは、マスコミなどでなかなか脚光を浴びないが歴史は古く、300年の歴史と伝統を誇る。7月中旬の日曜日に大神輿が宮出しされ、次の週末には山車の引き回しが行われて最高潮を迎えるが、この山車は“屋台山車”と呼ばれるもので、通常の3段ではなく1段の造りとなっている。

山車に特徴があるものの、残念ながら同様の夏祭りが隣接の久喜市や杉戸町、栗橋町でも八坂神社の例大祭として同時期に行われているため人出が分散。地元の祭りに終わっていることが泣き所だが、それでも市産業振興課では「人を呼び寄せる観光資源として保存、発展させていきたい」とアイデアをひねっている。同じく市の無形民俗文化財に指定され

ている『大杉ばやし・ささら』は、大杉神社の祭礼で行われているお囃子と香取神社の獅子舞で、伝統が受け継がれている。

▼新たな観光資源も

観光振興で新たな地域活性化として今、幸手市がもっとも期待しているのが人気アニメキャラの『らき☆すた』で、大きな観光資源として全国にアピールしていこうと着々と準備が進められている。なぜ、幸手市が『らき☆すた』かかというと、作者の美水（よしみず）かがみ氏が幸手市の出身であり、住居があったという縁があるからだ。さらに、隣の鷺宮町には登場人物の柊姉妹の父が鷺宮神社の宮司という設定であり、多くの『らき☆すた』ファンが“聖地”に押し寄せている。市としては「このブームを観光資源に生かさない手はない」として、大々的に活用する方針だが、既に一部市民の間では地域活性化の切り札として利用している。

地元商店会が中心となって、約200か所の街路灯に『らき☆すた』の様々なポーズ絵を貼りこんだほか、ストラップなどのオリジナルグッズを販売。地元産の白目米を使用した酒造企業では、製造した清酒のラベルに取り入れている。また、今年3月28日には作者の



約300年の歴史と伝統を誇る八坂神社の夏祭り

美水家の転居に伴って空き家となった旧居を商工会が無償で借り受けて、アニメの泉家を再現した交流施設の「きまぐれスタジオ 美水かがみギャラリー幸手」を開設した。こうした取り組みで、これまでに約3,000万円の経済効果があったのではないかと商工会では見積もっている。

当然、市当局も観光や町興しの一つとして活用するが、今のところ主人公たちへの特別住民票の交付やファンを呼び込めるイベントの開催など計画しているところで、「難しい面もあるが経済効果が抜群なので早く実現させたい」と全庁あげて秘策を練っている。

▼権現堂堤を軸に観光振興

アニメだけではなく、杉戸町に接する市営の釣場『神扇池』の活用や権現堂桜堤に近い『行幸湖大噴水』（スカイウォーター）、あるいは権現堂川の『外野橋』なども力を入れていきたい観光資源だ。神扇池は、ヘラブナ釣りの世界では名が通っている釣場で、毎年多くの太公望が訪れている。行幸湖大噴水は、120年を迎えた埼玉県を象徴する施設で、高さ120フィート（36.6m）に吹きあがる水しぶきは迫力満点。外野橋は幸手市のランドマークと言われている吊り橋で、優れた構造特



ヘラブナの世界では名が知れている神扇池の釣場



幸手市のランドマークとなっている外野橋

性と美観を合わせ持ち、世界で4橋しかない。

一方、街なかを歩けば昭和の面影を残すレトロな建物や雰囲気が漂っている。昨年末には、この街なかを紹介するため立教大学観光学部の学生が“ぶらって幸手”という街歩きマップを3部作で製作。観光客が幸手市に訪れた際、街なかをぶらぶら歩く楽しみの一助となっているが、こうした行政や市民以外からの応援も寄せられている。

市産業振興課では、今後の地域経済の活性化に向けて、いかに地域資源を活用していかかが大きな課題だが、「理想的には小さいながらも宿場町として知られている。その宿場町を前面に観光を振興させたいところだが、残念ながら中途半端な宿場町なため特色が出にくい」と話す。そのため、「権現堂堤を中心に人を呼ぶことが課題」だと説明。大勢の観光客が訪れて、市内で少しでも多く消費する機会を高めていくことが求められているという。幸い、地元のNPOが中心となって市民総出で観光振興を積極的に取り組んでいることが大きな強みだ。市当局も「他の自治体ではあまり見られない独特な手法」と評価、市民と手を携えて幸手の地域活性化を図っていく方針でいる。